



先生方の



この一冊

令和7年11月

西東京市立青嵐中学校

「先生方のこの一冊」について、各先生からおすすめ文をいただきました。

「この一冊」の本は図書室に用意しています。ぜひ一度手に取ってみてください。

《図書室利用案内》

開室日・時間

毎日昼休み（図書委員による開室）

月・水・金の放課後（学校司書による開室）

詳細は図書室カレンダーを見て下さい。

貸出冊数 1人 3冊

貸出期間 2週間



校長 先生

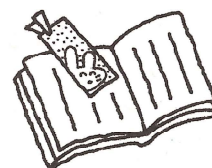
『火垂るの墓』

野坂昭如//著

ポプラポケット文庫



兄妹の餓死まで描いたこの本は戦後80年の今年にぜひ読んで欲しい名作です。



副校長 先生

『大谷翔平超一流の名言365』

桑原晃弥//著

かや書房



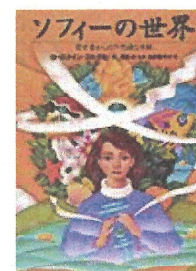
大谷選手が活躍している理由がわかる一冊です。人格のすばらしさ、謙虚さや常に感謝の気持ちをもっている姿勢、たゆまぬ努力、どれをとっても素晴らしい人物です。

F・M 先生（英語）

『ソフィーの世界』

ヨースタイン・ゴルデル//著

日本放送出版協会



14歳の少女が「あなたはだれ？」と1行だけ書かれた手紙を受け取ることから始まる物語。西洋哲学を学びながら自分や世界について考えるきっかけとなるお話です。

N・T 先生（美術）

『深夜特急』

沢木耕太郎//著

新潮文庫



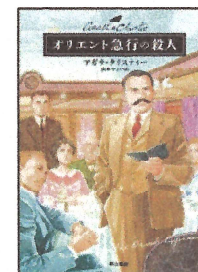
憧れの旅です。

K・T 先生（技術）

『オリエント急行の殺人』

アガサ・クリスティー//著

早川書房



有名な推理小説で学生時代に読んでラストにびっくりしました。ミステリー好きにはぜひ読んでほしいです。

K・J 氏（事務）

『かがみの孤城』

辻村深月／著

ポプラ社



学校での居場所をなくし、閉じこもっていた“こころ”の目の前である日突然、部屋の鏡が光り、ぐり抜けた先にあったのは城のような不思議な建物。生きづらさを感じているすべての人に贈る物語。

T・H 先生（数学）

『逆ソクラテス』

伊坂幸太郎／著

集英社



「僕はそうは思わない」
どれも先生と生徒が出てくる話
ですが、生徒が大きくなって
昔あったことを振り返る。
そんなスツキリする話です。

N・M 先生（英語）

『マチルダは小さな大天才』

ロアルド・ダール／著

評論社



天才少女マチルダが横暴で高圧的な大人たちに頭脳で立ち向かい仕返します。「マチルダ」という映画を見てから読んでもいいかも。

映画「チャーリーとチョコレート工場」のロアルド・ダールの作品です。

面白いですよ！！

I・A 先生（技術）

『永遠の0（ゼロ）』

百田尚樹／著

講談社文庫



太平洋戦争の特攻出撃で亡くなった零戦パイロットの話です。戦後80年、戦争の悲惨さ、命の大切さをもう一度胸に刻むきっかけにしてほしいと思います。

I・K 先生（英語）

『「コーダ」のぼくが見る世界』

五十嵐大／著

紀伊國屋書店



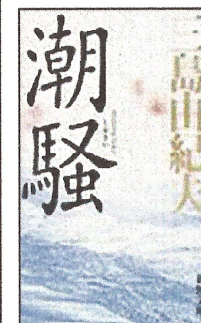
「コーダ」という言葉を知っていますか？
「耳が聴こえない、あるいは聴こえにくい親の元で育った、聴こえる子どもたち」を意味します。「聴こえる」環境にありながらも複雑な心を抱えて揺れる作者の思いに沢山の事を考えさせられる1冊です。

M・D 先生（国語）

『潮騒』

三島由紀夫／著

新潮文庫



「その火を飛び越して来い。
その火を飛び越してきたら」
潮の音が響き渡る歌島で漁師の「新治」と村の有力者の娘「初江」は互いに惹かれあい、そして恋をする。清らかで一途な青春恋愛物語です。

S・D 先生（社会）

『源氏物語』 紫式部//著 角川ソフィア文庫



世界最古長編小説です。

聞いたことはあっても読んだ事はない人が多いのではないのでしょうか？
この機会に手に取ってみてはどうでしょうか？

N・D 先生（国語）

『N』 道尾秀介//著 集英社



6つの章がそれぞれ独立した物語ですが、少しずつ、つながって全体を構成しています。
どの章から読むか、どの順番で読むかは読者が決められます。
その組み合わせは
720通りもあります！！

T・M 先生（理科）

『こころ』 谷川俊太郎//著 朝日新聞出版



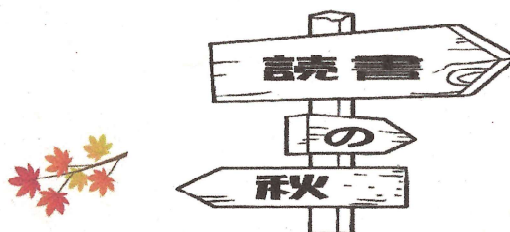
詩が好きな人にぜひおすすめしたいです。
ココロ こころ kokoro
文字の形の違いだけであなたのこころは微妙にゆれましたか？

I・Y 先生（養護）

『感染症を正しく学べる！
はたらく細胞～ウイルス&細菌図鑑』
講談社



最近では実写版の映画にもなった「はたらく細胞」のウイルス&細菌に特化した本です。毎年流行するインフルエンザ、そのウイルスの仕組みは？体の中でどうやって増えていくの？自分の体にそなわっている力とは・・・これを読めば感染症もこわくない。正しく知って自分の体を守ろう。



I・S 先生（社会）

『天地明察』 沖方丁//著 角川文庫



「カレンダーがずれる」
こんなことありえないと思いますか？
この話は江戸時代、本当にずれた暦を正すために生涯を賭けて「天」と戦う人の話です。壮絶な生涯をぜひ御覧ください。

T・K 氏（副校長支援員）

『その話、諸説あります』

日経ナショナル ジオグラフィック社



この本は「諸説ある」話をその複数の「諸説」にしたがつて解明しようとする話です。しかも各々のテーマも10ページ前後とまとまっていて読みやすかったです。私が思っていたモノリザのモデルが他にも4名の説があるとは驚きでした。よろしければぜひ読んでみてください。

N・K 先生（国語）

『嘘みたいな本当の話』

高橋源一郎・内田樹//選 イースト・プレス



市井の人々から寄せられた 149 の「嘘みたいな本当の話」。どれも実話でほっとしたり、ゾッしたり。

すべての物語が 1 ～ 2 分で読めて、しっかりオチもある。時間も集中力もない人でも読める。そして何かを得たような気になれる。おすすめです。

A・K 先生（社会）

『上昇思考』

長友佑都//著

角川書店

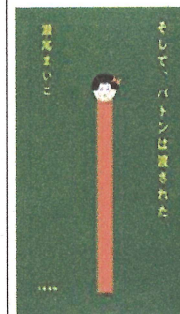


現在でも強いメンタルと身体で活躍を続けているプロサッカー選手の彼が「幸せを感じるために大切なこと」を一冊の本にまとめたものです。特にメンタルを鍛えたいと思っている人におすすめの本です！読んでみて下さい！

T・Y 先生（音楽）

『そして、バトンは渡された』

瀬尾まいこ//著 文藝春秋



色々な家族のバトンを受け取って育った主人公・優子と、その周りの人々とのあたたかな日常が描かれています。（合唱コンの伴奏者を務める場面も・・・！）自分の周りの人を大切にしようと思える 1 冊です。

S・K 先生（家庭科）

『誕生日のできごと』

加藤千恵//著

ポプラ文庫ビジュアル



『信じられないほど多くの分岐点の中であらゆる出来事が重なって、今わたしがここにいて何かを思っているということ』本文より
選択肢によって自分らしさができると思います。あなたはどんな選択をしますか？

S・K 氏（学校司書）

『あのころはフリードリヒがいた』

ハンス・ペーター・リヒター//著

岩波少年文庫



ドイツ人の僕と仲良しの少年フリードリヒ。彼はユダヤ人というだけで親の仕事もなくなり、家もなくし、様々な場所で迫害を受ける。

最後のシーンは悲しみだけがのこる。

他・2 冊

続編「ぼくたちもそこにいた」

続々編「若い兵士のとき」

M・R 氏（学校司書）

『ジョン万次郎漂流記』

井伏鱒二//作

偕成社文庫



土佐の漁村に生まれた実在の人物中浜万次郎の物語です。出漁した船が転覆して無人島に漂着し、運よくアメリカの捕鯨船に助けられます。好奇心旺盛な万次郎は、船長の助言のもと、一緒にアメリカに行って学問することを決意します。幕末から明治にかけて、通訳として活躍。井伏鱒二、直木賞の一冊です。